

# リスク管理

都市と地方の「地域格差問題」は、今般の参議院選挙の主要争点の一つであり、世論の関心も高い。都市化は、都市内に生活環境の悪化や長時間通勤などのリスクをもたらすが、一方で、地方では過疎化や地域活力低下などのリスク懸念がある。

◇

1960年前後の都市化は、都市と地方の所得格差がもたらしたものであったが、バブル期に上昇をみたものの、一環して格差是正が進んでいたが、直近では再び上昇してきた(図)。また、内閣府の「社会意識に関する世論調査」(毎年2月)をみると、地域格差に対する国民意識が、9.7%(05年)、15.0%(06年)、26.5%(07年)と毎年増加している。

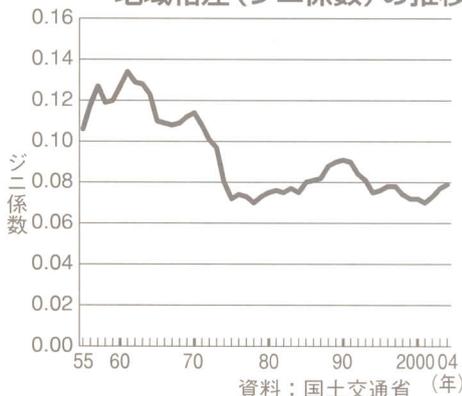
これは、離島や豪雪地

## リスクマネジメント

### ABC

## 都市化と地方活力低下

県民所得(一人当たり)の  
地域格差(ジニ係数)の推移



帯など地理的・自然的条件が不利な地方部では、相変わらず人口減少が止まらない傾向が続くとともに、わが国全体の少子化の進展により、総人口の減少に先がけて地方部では人口減少に転じるなど、地域の将来に対する過疎化リスクへの不安が

高まってきているからと、考えられる。また、若者が都市に出て行き子供が少なくなることで、祭りや消防団が消えるなど、地域における伝統文化や安全などの喪失リスクが生じてくる。さらに、高齢者主体の地域になると、介護や

福祉などの行政需要が高まり、財政破綻のリスクが生じてくる。北海道夕張市の財政破綻が、高齢者に悲惨な結果をもたらしている現実を、TVを通して国民は知ることになった。このような地域活力の低下リスクが顕在化すると、益々、地方部から大都市圏への若者移動(都市化)が止まらなくなる。

注目すべきは、先進的な地方での人口減少を前提としたまちづくりの動きである。

例えば、青森市などで行われている身の丈に見合った市街地に公共施設や商業地を集約するコンパクトシティの発想である。効率的な地域経営が可能になり、利便性も向上する。また、グローバル化の中で、地方が世界の地域との直接交流を進める動きも出てきている。掛川市、高山市などが先導した世界十字路会議の発想である。これらのように、わが国の地域には、活用できる資源やノウハウ、人材が、意外と豊富にある。大交流時代における地方活性化は、地域固有の資源を生かし、国際的な視野で行う時代が来ている。

## 国際的視野で地域生かす

(日本総合研究所)